

テクノロジーが変える教育の未来

時代の変化とともに教育改革の重要性が認識される中、アナログだった学校教育は、テクノロジーによってどのように進化するのか。オンライン教育サービスを運営する山口文洋氏が語った。

講師：山口 文洋 氏

リクルートホールディングス 執行役員 兼
リクルートマーケティングパートナーズ 代表取締役社長



教育格差の解消に向けて オンライン教育サービスを提供

子どもたちにとってインターネットは身近な存在であり、特にスマートフォンは高校生の9割以上が保有しているといわれるほど普及している。こうした状況を踏まえ、手軽に受けられるオンライン教育サービスを配信したいと考えて生まれたのが「スタディサプリ」だ。いつでもどこでもプロ講師による授業動画で学習ができることが特徴である。

このサービスを構築した背景には、近年の深刻な教育格差がある。低所得家庭や辺境の地域に住む子どもが、生活環境により塾や予備校に通えず、夢や志を半分投げ捨てているのが現状だ。そうした子どもに向けて、放課後に家庭などで手軽に利用できるオンライン教育サービスを提供したいと考えたのである。

教育改革の実現には基礎知識教育の 効率化と生産性向上が必要

現在、日本は明治以来の大教育改革

に取り組んでいる。成長社会だった時代は情報処理の速さや一つの正解を導き出す力が求められたが、成熟社会となるこれからは、さまざまな情報を組み合わせる導く力、思考力、判断力、表現力などが重視される。

こうした教育改革を実現させるには、学校教育において従来の基礎知識教育に加え、アクティブラーニングやプロジェクト学習をはじめとする新たな教育を行うことが必要になる。

現在の授業の形では、授業についていけない生徒は自己否定に走りがちとなり、一斉授業での限界値が見えてくる。また、教育現場では授業準備、宿題、採点などの業務がすべてアナログで行われているため、教師に時間的な余裕が少なく、教育の効率化と生産性が悪いという実態がある。こうした状況では、新たな教育を実施する余裕は生まれない。

これらの状況を改善するにはどうすればいいのか。ここで鍵になるのが、私たちの教育サービスの根幹でもあるICT*だ。ICTを活用し、基礎知識教育の効率化と生産性の向上を目指すことが必要である。例えば、生徒一人ひとりの学習データをデジタル化して習熟度を可視化し、それによってパーソナ

ルな学習プランを作成することができれば、教師が新たな教育に取り組む余裕が生まれる。ICTを使うことによって教育現場におけるマネジメントが改善できるのだ。

学校におけるICT活用に向けて 早期にネットワーク化の整備を

将来的には、学校の授業自体がICTを使った動画配信などで実施されるようになり、教師もキャリアカウンセリングやアクティブラーニング、プロジェクト学習などに関するコーディネーターやファシリテーター、メンターといった細分化した役割を担うようになるのではないだろうか。

ただし、ICTを積極的に活用するには、学校現場のネットワーク化が急務である。残念ながら、現状でWi-Fi環境が整備されている教室は、大学を除く公立学校の全教室数のうち、17%程度しかない。国・自治体が早期に整備を進めるべきである。一方、タブレットやスマートフォンなどのハードウェアについては個人所有のものを活用して、そこで生まれた予算をネットワーク化と最低限のハードウェアの備蓄に使うべきだ。

全国の学校でネットワーク化が進み、ICTの活用が容易になれば、学校現場は大きく変わり、日本が目指す教育改革が実現するだろう。

*ICT : Information and Communication Technology (情報通信技術)